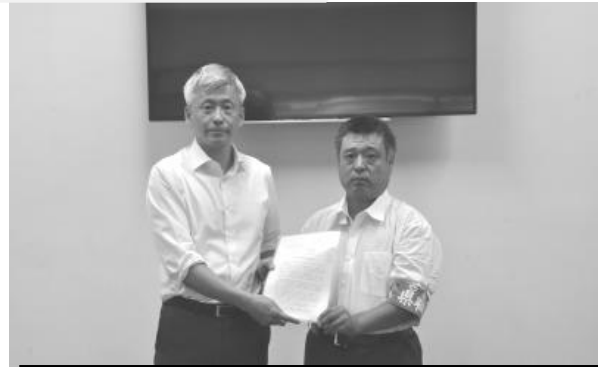


	号外	定価 1部2円	評協議会意見交換会実施中！多くの組合員の現場の「声」を集約し、要求へつなげよう！！
	昭和34年4月1日 第3種郵便物認可	発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合	

7.22現業評議会 人事課要求書提出・交渉 現業職の人員確保・増員を 現業独自要求書提出・人事課長の見解質す ＝農林水産企画室・県土整備企画室・管財課にも要請書提出＝

7月22日、県職労現業評議会（議長・菅原薫 畜産研究所分会）は、2024年度現業評議会の独自要請書を内城人事課総括課長に提出し、現業職の退職者補充、人員体制の拡充等に関する基本姿勢を質し、秋の現業闘争に向けて改善を強く求めた。交渉結果は次のとおり。



内城人事課長に要求書を手交する菅原議長(右)

人事課

(1) 運転技士の人員確保に関し、内城人事課長は「振興局土木の運転技士は、日々の公用車の点検整備や安全な運行を通じて、業務遂行に大きく貢献していただいている職種であると承知しており、運転技士が担う業務の必要性は認められる。人事課としても県土整備部から、振興局土木部ごとの事情や、採用の実施の要望等を聞きながら考えていきたい」、県庁車庫の運転技士については、「適正な体制の確保について検討してきており、今年度においては、検討を踏まえて運転技士2名を新規採用したところ。今後においても、管財課と意見交換し、業務の状況を把握しながら連携して対応する」との姿勢にとどまった。交渉団からは、計画的な新規採用と退職者の完全補充を強く求めた。



職場実態を訴える現業評交渉団

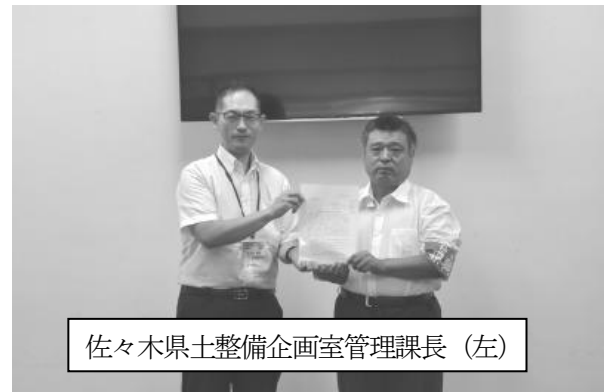
(2) 技能員の増員・補充に関しては、「主管部から職場状況や業務実態を聞き、適切に対応。人員配置に関する要望は受け止めていることから、私自身も各公所に伺って職場の状況などを直接聞きながら対応する」との姿勢であったことから、交渉団からは、「技能員配置がギリギリの体制であり、年次休暇取得が困難」「しっかりとローテーションが組める人員体制と人材育成の環境

整備に向け人員増が必要」と訴えた。

上記のほか、賃金改善、執務環境改善、定年引上げを踏まえた 60 歳以降の働き方等について見解を質した。菅原議長から「現業職の人員増と新規採用での補充」、「エアコン未設置箇所の早期解消」を訴え、秋の現業闘争での前進回答を求め、交渉を終了した。

県土整備企画室

振興局土木部の運転技士は緊急課題等を担っていることから配置は必要と考えている。現在、各公所のヒアリングを実施しており、現場の「声」を聞き、運転技士の体制構築に向けて検討していく。



佐々木県土整備企画室管理課長（左）

管財課

管財課運転技士の 17 人体制の維持は必要と考えている。公用車の更新についても、公務災害となれば、運転手だけでなく乗車している人にも影響があることから問題意識を持っており、まずは今年度 2 台の予算要求を実施。今後についても、必要な車種については適切に予算要求を進める。



岩間管財課総括課長（左）

公用車の利用ニーズが高いことについては、運転技士にとって過度な負担とならないように配慮が必要と考えている。業務都合を見極めながら対応を検討していく。

農林水産企画室

各職場の技能員については、暑さや労働の過酷度が増した労働環境となっていることに加え、現状の人員体制が最低限度でローテーションを回す状況になっていることも認識している。部としても現場の実態をきちんと把握し、総務部に対しても働きかけていく。



尾形農林水産企画室管理課長（右）

エアコンが未設置の公所については、優先度・必要性に応じて対応をしていく。各研究機関施設の設備の老朽化についても、事故なく安全に作業ができることが重要であり労働環境の整備も順次進める。

2024 人勧期中央行動を実施

7 月 24 日に公務員連絡会は、全国の公務員関係労組から組合員 2,000 人の交渉支援を背景に人勧期中央行動を実施した。（自治労岩手県本部からは 5 人が参加し、うち 1 人は県職労から参加。）

人事院勧告については、「8 月 5 日の週」に行われることが想定されています。